

令和5年度 新規研究課題の概要

No.		期待される成果
01	<p>【農林センター】 「京式部」の専用脱プラスチック発型肥料の開発及び早植高品質栽培技術の確立</p>	<p>「京式部」などの京都府オリジナル品種における収量、高品質、良食味などを確保した脱プラスチック発型肥料の開発するとともに、地力診断と穂肥診断^{ほごえ}技術を確立。 早植「京式部」の高品質栽培技術の確立することで、作期拡大による労力分散を図り、1経営体あたりの栽培面積拡大を実現。</p>
02	<p>【丹後農業研究所】 京都ブランドの加工用カンショ新品種の選定と良食味安定生産技術の確立</p>	<p>消費者に'美味しさ'をアピールでき、他府県産と差別化できるオリジナル品種を選定するとともに、土壌センサーを活用した好適な土壌養分・水分管理技術の開発し、開発農地及び水田転換畑における食味安定生産マニュアルを作成することで、新しい京都ブランドを確立。</p>
03	<p>【生物資源研究センター】 枝豆『京 夏ずきん』新品種の収量安定化及び高精度な収穫予測モデルの確立</p>	<p>新系統の品種登録および原々種選抜を進めるとともに、新系統の安定収量を達成し、7月から『紫ずきん』収穫前にわたるリレー出荷栽培技術の確立。 新系統の高品質生産を可能とする実用的かつ高精度な収穫予測モデルの確立。</p>
04	<p>【森林技術センター】 産学公連携によるICTを活用した新たな木材流通（京都モデル）の構築に関する研究</p>	<p>ICTを活用した原木情報共有化技術や強度選別材や広葉樹資源の広域(web)取引技術により、府内の実情に対応したICTを活用した木材流通体制を構築し、京都府産木材の生産量・供給量増加、高付加価値化による有利販売を実現。</p>
05	<p>【海洋センター】 定置網の急潮被害防止を目指した高精度海況予測モデルの開発</p>	<p>沿岸域に特化した分解能の高い海況予測モデルの開発により、これまで予測が困難であった沿岸域（各定置網）の急潮発生を事前に把握し、見落としの件数を3割削減。 急潮情報に基づく対策を定置網漁業者に促すことで、被害を防除し、漁業経営の安定に貢献。</p>
06	<p>【海洋センター】 アサリの稚貝安定供給と養殖技術の確立</p>	<p>親貝集団の解明により、阿蘇海産天然アサリ稚貝の安定供給体制を確立するとともに、京都府オリジナルのアサリ養殖マニュアルを作成し、純国産（京都生まれ京育て）アサリのブランドを確立。</p>
07	<p>【海洋センター】 ズワイガニ保護区の有効性評価および資源増大手法の確立</p>	<p>現状の保護区の機能性(ブロック魚礁の設置状況など)を評価するとともに、親ガニ資源の増大(5年後目途に現状より3~5%アップ)に必要な区域拡大策を確立し、漁獲量の増加を図る。</p>
08	<p>【畜産センター】 稲WCS多給及び分娩前栄養水準制限などを組合せた高品質乳の生産技術の確立</p>	<p>府内で多く栽培される穂重型品種の稲WCSの多給と乳量曲線平準化技術の組合せによる飼養管理技術の確立。 新しい知見に基づいた乾乳期及び分娩後の飼料設計方法や留意点、経済性を取りまとめたマニュアルを作成し普及。</p>